

うつ傾向のある難治性めまい症例
および多愁訴症例に対する
パロキセチンの使用経験

上越総合病院耳鼻咽喉科
五十嵐良和

H16.10.5 くびき会

SSRI (Selective Serotonin Reuptake Inhibitor)

- 日本で認可されているSSRI: ルボックス(ソルベイ)、デプロメール(明治製菓)、**パキシル**(グラクソスミスクライン)
- 従来の抗うつ剤にくらべ、抗コリン作用による副作用(便秘・口渇・排尿困難など)がなく、眠気が少ない。

使いやすそうな印象

SSRIは魔法のクスリ？

アメリカでは、落ち込んでいる、気分が重いという軽い患者にも処方され、“魔法のクスリ”として多くの人々が服用。また、厳しい競争社会を生き抜くビジネスマンが「明るくなる」「積極的になれる」という評判から服用することもあると。

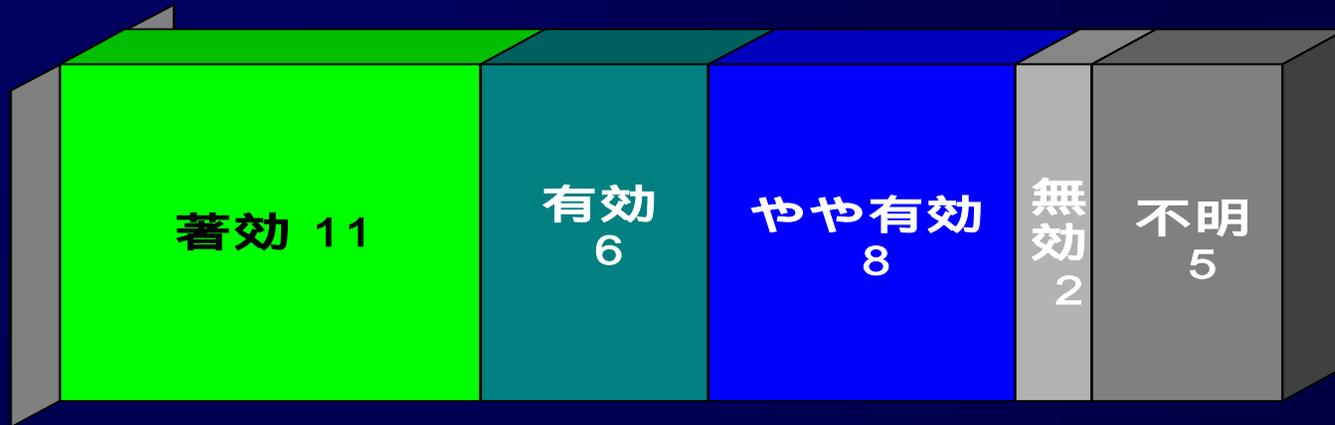
鬱傾向のある

難治性めまい、不定愁訴症例に試してみた。

対象

- 1、 安定剤を含めた治療をおこなっているが、効果不十分な難治性のめまい、多愁訴症例。
- 2、 いかにも鬱が基礎にあると感じられる症例。

臨床効果 N=32



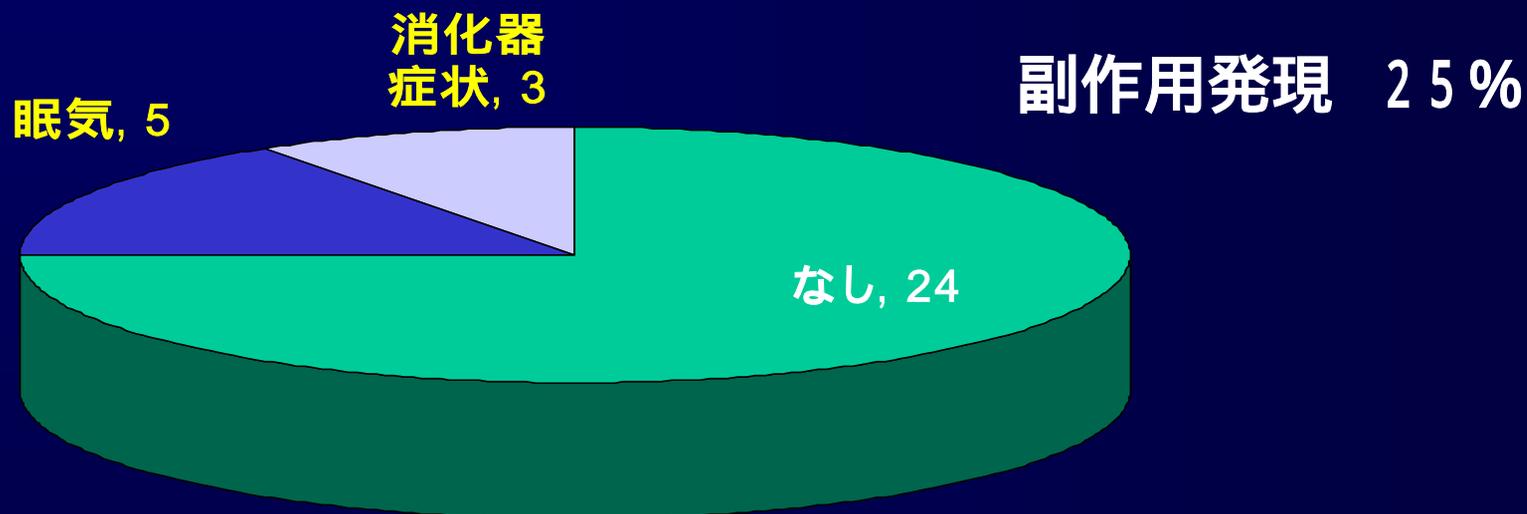
著効	すみやかに改善
有効	症状改善、減薬成功
やや有効	わずかなに改善
無効	ほとんど変化なし
不明	判定不能

有効以上 53% (17/32)

やや有効以上 78% (25/32)

空回りタイプの多愁訴には
効かない印象

副作用 N=32



中止例2 (眠気1、嘔吐1)

能書きと異なり、眠気は多く、消化器症状は少ない印象。

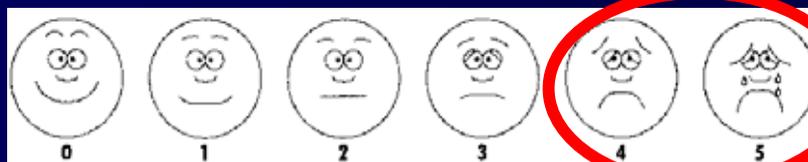


主な症例の経過

症例1 S.M. 33歳 女性 頸性めまい

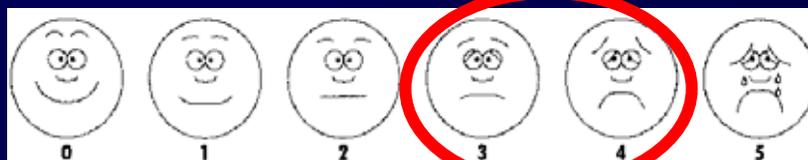
主訴 : めまい、頭痛、肩こり、食欲不振、不眠、抑うつ、育児ノイローゼ

基本処方 メリスロン、ガスター、デパス、ミオナール、ハルシオン、



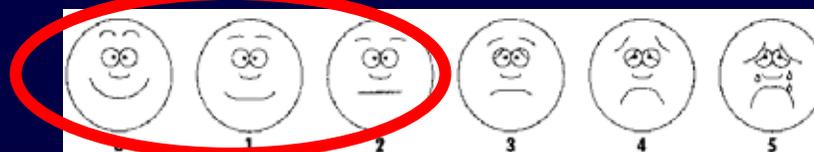
デプロメール
50-100mg追加
H15.8

ふわふわ感、悪夢を見る、気候変化で体調が著変



パキシル40mg
に変更H16.4

表情がとても明るくなり、身に着ける衣装も明るくなった。
二人目の子を希望するようになった。

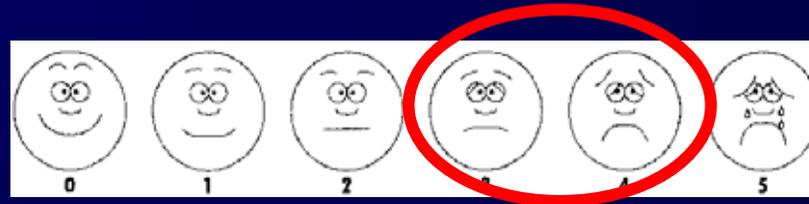


ただし、一時的な減量30mgで過換気発作あり

症例2 N.S. 44歳 女性 右メニエール病

主訴 : めまい、頭痛、肩こり、耳閉感 十二指腸潰瘍治療中

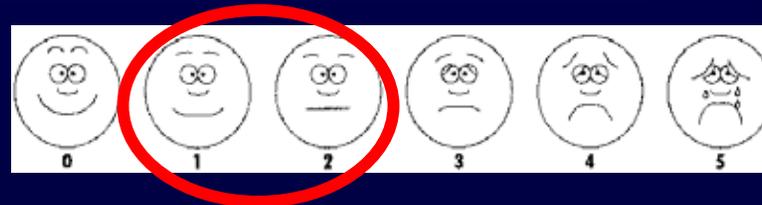
基本処方 アデホス、メリスロン、カルナクリン、メイラックス、
ガスター、レンドルミン



H15.7 初診 症状は一進一退。

疲労しやすく、睡眠不足により、容易に耳鳴増強、めまい出現。

H16.5パキシル10mg追加、2週間後、めまい、耳鳴消失。



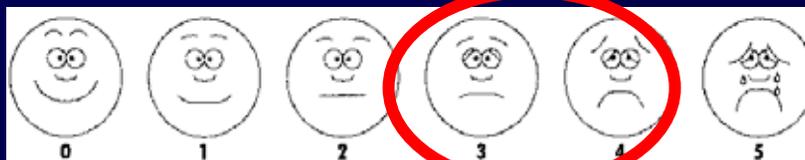
とてもよく動けるようになり、疲労しにくくなった。
併用薬はガスター、レンドルミンのみに減。

症例3 Y.J. 43歳 女性 メニエール病

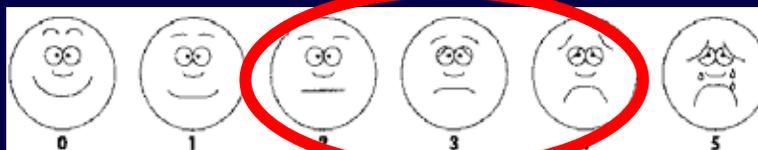
主訴 : 頭痛、肩こり、めまい、耳閉感、胃痛、寝汗
H13年12月、H15年6月入院の既往あり。

基本処方 ワイパックス、デパス、メリスロン、イソバイド、
ロキソニン、ガスロンN、ツムラ23番

わずかな気候変化で体調不良を生じやすく、来院時いつも疲れきった暗い表情をしている。減薬を試みるも不能。



パキシル20mg追加 体調に波があるが体調が若干よくなってきた。



イソバイド、メリスロン、ワイパックスを中止。困難だった減薬に成功した。

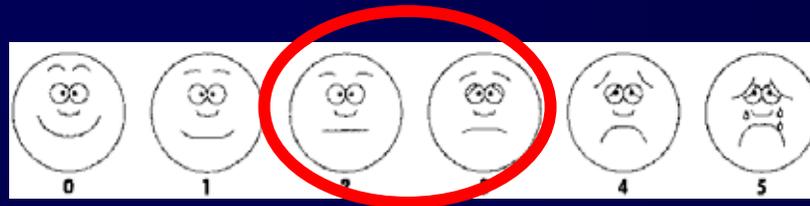
症例4 Y.K. 44歳 女性 中枢性平衡障害(心因性?)

主訴 : めまい、ふらつき、両耳閉感

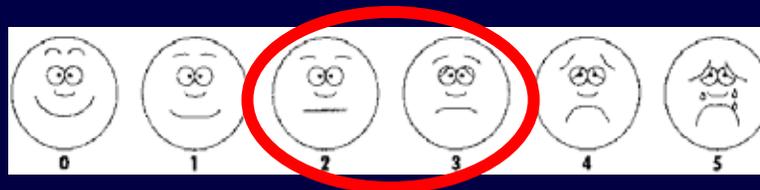
検査 : 閉眼起立困難、指標追跡不能、MRI異常なし。
H14年12月、入院の既往あり。

基本処方 ワイパックス、メリスロン、ケタス

無理をすると容易に体調不良となる。仮面うつ病?。



パキシル10mg追加したが、
身体に力が入らない、ふらつきが強いとして、H16年5月入院。



パキシル30mgに増量したが、その後も改善不十分。

実際に使用した印象

- 1、 ぴたりとはまれば、確かに魔法のように効く。
- 2、 空回りタイプの自律神経失調には効かないので、患者さんの表情をみて鬱傾向を判断することが必要。
- 3、 多量投与症例は、リバウンドを生じやすいので、トランキライザーのように気軽に頓用では使えない。
- 4、 まずはトランキライザー単独とし、難治例に追加投与するのが適当だろう。

導入時の抵抗感を減らすためのムンテラ

- ストレスによる心と身体の不調は、神経の潤滑油となるセロトニンが少ないために生じうる。
- このクスリは、セロトニンを増やしてくれる。
- 日本では、うつ病とパニック障害にしか適応がないが、米国では、自律神経失調など、多彩なストレス疾患に対して優れた改善効果を認めることが知られている。

うつ病としてではなく、むしろ欧米的な効果を期待して処方する。

患者への服用注意

1、効果が出るまで1-2週間かかる。

(お風呂にお湯を少しずつ入れるようなものだから)

2、調子が良くなっても、自己判断で中止すると
服用前より不調となることがある。

(お風呂のお湯を急に抜いて冷えるようなもの)

3、おもな副作用は、眠気と消化器症状。

(眠けがやすい)